

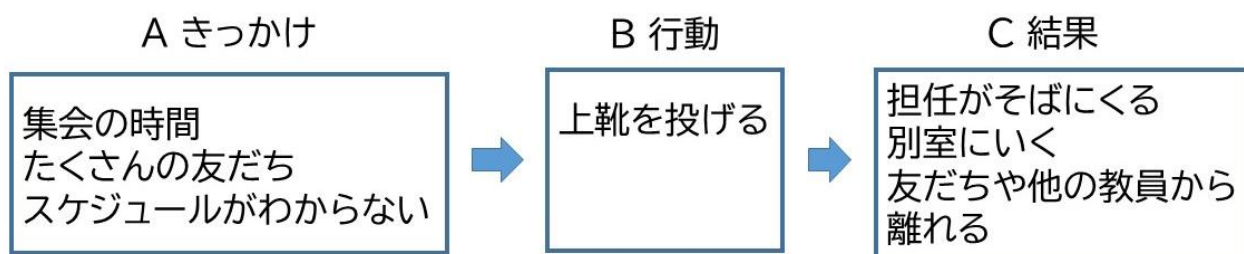
今回は、子どもたちの行動を「Aきっかけ」「B行動」「C結果」のように一連の流れでとらえるというお話をしました。このようにABCに分けて考えることを「ABC分析」と言います。

子どもたちの行動をみると、「どうして、そんなことをするの?」と感ずることがあると思います。そのようなときは、子どもたちのとる困った行動を「子どもたちの視点」でとらえることが大切になってきます。

例を挙げて考えてみます。

「Dくんは、集会の時間にしばらくすると突然『上靴を投げる』ことが多い。担任としては、最後まで集会に参加してほしいと考えているが、他の児童に危険が及ばないようにDくんを別室に連れて行き、上靴を投げないように繰り返し指導を行っている。」

ABC分析で整理してみると



「上靴を投げる」行動は、教員にとって困る行動です。子どもたちにとっては、その行動にも必ず意味や理由が存在します。

それらを見ていくことを機能分析といいます。「子どもたちの視点」で行動をとらえ直すとわかりやすいです。

行動の機能には、大きく4つあります。

「要求」「逃避」「注目」「感覚」です。



要求	ほしい
注目	注目や関わりを得たい
逃避	イヤなことから逃げたい
感覚	感覚刺激を得たい

このケースであれば、「上靴を投げる」行動で、「集会の場から離れて別室に行く」という結果が得られています。行動の機能(意味、理由)が、「逃避」の可能性がります。イヤな場所から離れることができるため、「上靴を投げる」が繰り返されていたと考えられます。

今回のお話では、教員にとって困る行動も機能分析(子どもたちの視点)で考えることで、子どもたちにとっては重要な意味(機能)があることがわかりました。

次回は、困った行動が繰り返される原因を考えるステップについてお話させていただく予定です。

